

(様式2)

令和2 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 1590100010 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人豊寿会 | | |
| 事業所名 | グループホームながば さくら棟 | | |
| 所在地 | 新潟市北区長場字土居下1282-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年8月6日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 公益社団法人 新潟県社会福祉士会 | | |
| 所在地 | 新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階 | | |
| 訪問調査日 | 令和2年9月17日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは入居者様がグループホームを自分の家と思い、快適に過ごして頂けるよう取り組んでいます。ホームの中に留まらず、四季を感じられるよう、また「〇〇に行きたい」と発言があれば、出来るだけ実現できるよう職員一同心がけております。他にも、ホーム内で四季に合わせた行事も取り入れ利用者だけでなく職員も一緒に楽しめるよう工夫をしています。時間に捉われることなく、自由な時間を活用して楽しい表情が多々見られるように今後も取り組んでいきたいと思っております。

事業所は、周辺を田園に囲まれ、四季折々の変化や野鳥の飛来など自然を室内からも眺め楽しむことができる環境にある。地域の行事や防災訓練、文化祭などに積極的に参加し、隣接する同法人のデイサービス事業所と連携しながら夏祭りの開催などで地域の方との交流を図っている。保育園児との食事会や小・中学生との福祉体験交流などもあり、地域とつながる方法を増やして関係性を深めている。

利用者の生活については個々の思いを大切に「〇〇に行きたい」「〇〇したい」などの言葉が聞かれると、願いをかなえるための対応方法を検討し、取り組みにつなげている。コロナ禍で外出や家族との面談が制限される中、利用者のために事業所ではできないかとの職員の思いから、事業所内でも楽しめることを積極的に支援している。調査訪問時にも利用者と職員の歌声やレクリエーションを楽しむ声が多く聞かれ、創作活動の支援も行われていた。利用者との日々のエピソードが職員からたくさん聞かされ、介護する側される側を超えた共に暮らす関係性が築かれていることを感じる事ができた。

コロナ禍でこれまで積み上げてきた地域とのつながりや取り組みがやむなく縮小されている状況ではあるが、コロナ禍終焉以降にはこれまで築いてきた土台を活かして地域との交流や利用者への支援が再構築され、更に発展していくことが期待される事業所である。

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「安全・安心・あったかい心」の理念を全職員が共有し、理解し、身近な存在になるグループホームを目指している。 | 法人本部で作成した理念を全体会議で説明し、職員間の共有を図った。年度末に理念を振り返る機会を設けたり、理念と方針を記したカードを職員が携帯し、就業前に復唱するなどして理解を深めている。職員は日々の関わりの中で利用者の安全や安心できる生活を意識しており、理念を実践につなげている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の防災訓練、コミュニティイベントに参加している。地域の一員として交流しており、近隣の散歩でも挨拶を交わす等している。 | 地域の防災訓練や文化祭に参加したり、法人の夏祭りに地域の方を招くなど交流を図っている。保育園児との食事会や小中学生の福祉体験の受け入れで子どもたちとの交流もある。近隣とは散歩時の挨拶や野菜のやりとりなど日常的な交流も図られている。今後の取り組みとして「認知症カフェ」の開催を計画するなど、地域との交流が更に深まるよう検討を積み重ねている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の中に事業所はあるが、地域の方の為に活かしきれていない。 当事業所の法人祭である豊寿祭りでは「認知症に関する相談」というブースを設け地域との交流・密着に努めた。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている | サービス向上に向け、運営推進会議にて情報交換を行っている。その際の意見をその後のサービスに繋げている。コロナ感染症蔓延のため今期は未開催。 | 利用者、自治会長、民生委員、駐在所員、地域包括支援センター職員、法人本部職員、管理者の参加で開催している。駐在所員に防犯について話してもらったり、自治会長から取り組みの提案を受けたり、民生委員から地域の相談を受けるなど、情報交換がなされている。利用者が参加しやすいよう活動報告に写真を使用したり、参加時間を調整するなど配慮している。家族は遠方在住であったり、仕事などの都合から参加が叶っていない。 | 会議録を郵送するなど会議への理解が深まるよう働きかけているが、諸事情から家族の会議への参加は未だ実現していない。会議の趣旨の説明や家族が参加しやすい会議の持ち方、家族の意見の反映の仕方など今後も検討を継続し、働きかけが家族の参加に結びつくことを期待する。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営会議に包括支援センターの方に参加して頂いている。事業所の事情等を伝えながら協力を築くように取り組んでいる。また、相談したり、助言を頂いたりしている。 | 地域包括支援センターの職員には運営推進会議に参加してもらったり、虐待防止について研修をお願いしている。事業所からは地域包括支援センター主催の事例検討会に参加し、情報交換や学ぶ機会を得ている。利用者への関わりについては、市の職員にも相談している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 全ての職員が身体拘束をしないという意識を持って、ケアに取り組んでいる。外へも自由に出入られるよう施錠はせず、外出する利用者がいた際は、職員も一緒に外出し付き添うようにしている。 | 身体拘束を行った事例はない。「身体拘束廃止委員会」で拘束を行わないケアのため会議を重ねている。「身体拘束廃止指針」が整備されており、「ケアでの対応を全てやりつくしたか」「最も制約が少ない方法か」など、身体拘束を行う前に対応をしっかり振り返られる内容となっている。 | |
| 7 | (5-2) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 専門講師による虐待防止の研修を実地したり、職員のみでの勉強会を設ける等、全員が虐待防止に努めている。 | 法人で具体的な事例を交えたマニュアルが整備されている。外部講師による研修の他、月1回の勉強会では職員自身が講師になることで虐待防止の意識を高めたり、入職時にも時間をかけて研修を行っている。法人主催の職員行事や面談等で職員のストレス解消も図っている。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 上司のと話し合いや職員同士で学ぶ機会を持ち、活用できるようにしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の際、きちんと説明し、理解・納得を図っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時のアンケートや、年に1回サービス向上委員会の利用者・利用者家族へ向けたアンケートの実施を行ない、できる限り意見、要望に応えられるように取り組んでいる。 | 面会時には必ず家族と話をする時間を設けている。利用者への対応や家族参加の行事の計画など、家族の意見を運営に活かしている。年1回実施のアンケート調査では結果を伝えるとともに取り組みにつなげている。利用者の意見は日々の会話の中から汲み取り、外出の企画など実践につなげている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 年に2回の個人面談や上司との話し合いで意見や提案をする機会を設けている。現場の疑問等は皆で考え、検討する機会を設ける様になっている | 法人本部職員や管理者との面談の機会を設けたり、相談ノートを用意するなど職員が意見を出せる場を設けている。日々の業務の中で直接職員の意見を聴くことも多く、コロナ禍の中で外出のできない分、事業所内での楽しみ事を増やしたいなど職員の意見が運営に活かされている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個人面談での話し合い、各自が向上心を持って働けるような環境や条件の整備に努めている。 また、面談等にて不安を聞いてもらう事で働きやすくなる様になっている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内の研修により、スキルアップの機会を設けている。また業務の中で助言や指導を行っている。外部研修の斡旋も行い希望者は参加出来るよう業務調整を行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修に参加する事で、同業者と交流する機会を持ち、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。地域包括ケア会議に参加し、地域密着型の事業所の方から多くの情報を得ている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 家族等の協力を得て情報収集をしたり、本人の話に耳を傾ける事により、本人の安心感を確保し、良好な関係作りに努めている。本人の訴えに耳を傾け、希望をできるだけ叶えられる様にしている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族等との話し合いで困っている事等を傾聴し、適切なサービスを行なう事で、不安が解消されるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人とご家族の希望も含めたサービスの対応ができるように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-------|---|---|---|
| | | | 自己評価 実践状況 | 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 一つ屋根の下で同じ時間を共有している事を理解し、一緒に出来る事は共に行き、楽しい事も共有している。 | |
| 19 | (7-2) | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族と共に協力し、本人を支えていける関係となっている。面会時に近況報告を行ったり、行事にお誘いし、一緒に楽しめる機会を設けている。 | 受診の同行のほか、利用者の生活用品の購入を依頼したり、家族の意向をくみ取って洗濯物をお願いするなど、家族の役割や面会が増えるよう働きかけている。「自宅に行きたい」「お墓参りに行きたい」といった利用者の思いを家族に伝え伝えてもらっている。 |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 出来る限り、「馴染みの環境を大切に支援できるように努めている」また、お友達等が気軽に立ち寄って頂ける雰囲気作りをしている。 | 利用者との会話や家族からの聞き取りで馴染みの人や場所の把握に努めている。入居前に通っていたヨガ教室に行ったり、友人が面会に訪れるなど交流の継続が図られている。海や自宅周辺など馴染みの場所等、行き先は決めず利用者の案内のままドライブをするなど、利用者の思いに応えながら馴染みの場所との関係継続を支援している。 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | お互いに支え合ったり、関わり合うことにより、良い関係ができています。 | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 必要に応じて、相談や支援に努めている。 | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | コミュニケーションを密にし、思いや希望、意向を把握し、職員全員で叶えられる様に努力している。 | 日頃の会話の中で思いや意向を把握している。表現の難しい方には「はい」「いいえ」で答えられるように質問の仕方を工夫したり、表情やテンションなどから思いの把握に努めている。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 | (9-2) | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | これまでの暮らし等を把握し、一人ひとりに合ったケアを行なっている。 | 入居時に家族からの聞き取りのほか、可能な限り利用者本人からも聞き取りを行っている。把握した情報はセンター方式のアセスメントシートに記入し、半年に1回の介護計画の更新時に「思いや意向の把握」と共にまとめなおしている。また、把握した情報は、日々の暮らしの支援に活かしている。 | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの現状を把握し、本人に合った生活のリズムで過ごして頂ける様、努めている。ご自身のペースを大事にしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 全職員、ご家族、本人の意見を反映し、介護計画を作成している。 | 計画作成担当者が、利用者や家族の思いを入れて原案を作り、担当職員と管理者の確認後、他職員の意見も入れて正式な介護計画を作成している。モニタリングは6か月ごとに担当職員が行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子等を記録に残し、全職員が情報共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | その時々で対応し、相談、実行できるように取り組んでいる。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進会議等で情報収集し、安全で豊かな暮らしを楽しむ事ができるように支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご家族、主治医との連携をし、適切な医療を受けられるようにしている。 | 事業所の協力医の訪問診療を月1回受けている。入居前のかかりつけ医の継続も可能で、家族の付き添いで受診をしている。必要に応じて電話や手紙で利用者の状態を医師に伝え、適切な医療が受けられるよう支援している。受診後は受診記録に記入し、職員間で情報を共有している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|--------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 利用者の日々の状態、変化を見逃さず、法人内の看護師に伝え、指示を仰いでいる。週2回の看護師訪問時や電話で報告、相談している。必要であれば、早急に受診をしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院関係者との情報交換や相談に努め、安心して治療が受けられるようにしている。また、適宜面会する等、病院へ足を運んでいる。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 事業所の方針を本人、ご家族に説明し、納得して頂いている。また、提携先の病院などへも情報を伝えて対応に誤りがないようにしている。 | 入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」を基に、看取りは行わないことを説明している。要介護3になった時点や状態に応じて再度家族と話し合いの機会を設け、住み替えの準備や重度化した際の対応について確認している。 | |
| 34 | (12-2) | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 応急手当や初期対応は会社内の研修等で、定期的に行っている。また、マニュアルを確認し、実践力を身に付けている。 | 転倒や怪我、徘徊、入浴など事故別にフローチャートがあり、マニュアルが整備されている。嘔吐物処理やAED操作法、心肺蘇生法などは研修で実践力を養っている。隣接するデイサービス事業所の看護師から必要時に資料の提供を受けたり、対応について助言を得ている。 | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的避難訓練を行い、災害に備えている。地域の防災訓練にも参加し、地域の協力体制もできている。 | 年4回、火災、水害、地震などの災害を想定して避難訓練を行っており、地域の防災訓練にも参加している。備蓄は食料以外に非常用トイレの備えもある。台風時に地域の避難場所に避難した経験があり、炊き出しのない避難場所に事業所の持参した備蓄を提供するなど協力を行った。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの人格を尊重した言葉遣いや対応をしており、プライバシーの確保にも努めている。また、一人一人の言葉に耳を傾け、話を聞くようにしている。 | 個人記録やパソコンの画面を開けたままその場を離れないことや、記録する場所も他者の目に触れない場所で行うなど留意している。個人情報には施錠できる場所に保管しており、利用者の前で個人名を出して話さないようにしている。利用者との関係性に合わせ、不快にならない言葉かけや対応でコミュニケーションを図っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 生活の中で、自己決定が出来るよう支援し、本人の思いや希望を話しやすい環境作りをしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その方に合ったペースで過ごして頂けるよう、支援している。利用者様の家であるため、職員がペースを乱す事のないように支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 起床時には、整容をして頂き、身だしなみに気を配っている。外出の際は、その場に合った服装に着替えて頂いている。その人らしさを大切にしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 日々の食事の準備、食器洗いや食器拭きなどの出来る事をして頂いている。また、行事などで一緒に食事作りや準備を行っている。好みに合わせて味付けを工夫している。 | 献立は担当職員が利用者の意見を取り入れながら作成している。買い物はネットスーパーを利用しているが、おやつやお酒の買い出しなどは利用者と一緒にしている。包丁の使用を含めての調理やテーブル拭き、食器洗いや様々な場面で利用者と一緒に活動してもらっている。職員も利用者と共に食事を楽しんでおり、時には流しそうめんなど季節が感じられる食事や外食などで食べる楽しみを支援している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎食事、食事量や水分量を記入し栄養バランスや水分量の確保に努めている。また、必要に応じて食事形態を変更している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、声掛けを行い口腔状態の把握に努めている。また、必要者には入れ歯洗浄剤による消毒を行っている。必要な方には専門医による定期健診を行っている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄表に記録し、必要に応じた声掛けや誘導を行かない、自立に向けた支援をしている。なるべくトイレにて排泄して頂けるよう支援している。 | 現在の利用者は、ほぼ自立しているが、個々の排泄チェック表を見ながら必要な支援を行っている。パットの使用などは排泄状況に応じて随時見直し改善を図っている。夜間の排泄が不安な方にはポータブルトイレを用意し、失敗がなくなることで本人の安心感や睡眠の質向上につなげている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 医師に相談しながら下剤のコントロールを行っている。水分、体操など個々に応じた予防に取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 週2回、入浴して頂いている。受診や拒否などにて入浴日を変更することもある。季節やイベントに合わせて入浴剤を使用し楽しんでいただいている。 | 基本は週2回、午前入浴であるが、希望に応じて時間や順番、同性介助などを臨機応変に対応している。柚子湯などの季節湯や入浴剤は季節にあうものに変えることで気分転換を図っている。入浴を好まない方は、それまでの入浴状況を家族に確認しながら、本人の意向に沿って無理のない回数で清潔保持を図っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりの生活習慣、体調に応じて居室にて休んで頂いている。昼夜逆転を防ぐ為、日中帯は出来るだけレクリエーションにて身体を動かして頂く様にしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員全員で一人一人の薬を理解し、服薬の支援と症状の変化を見逃さないように努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 家事など本人の力に応じた役割を行って頂いている。体調に配慮して無理の無いようお願いしている。生活歴を参考に楽しく生活して頂けるように支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 行事や日々の買い物、散歩などにて外出して頂いている。出来るだけ希望にそった外出が出来るように支援している。 | 買い物やドライブ、外食などできるだけ外出の機会を設けており、隣接するデイサービス事業所の車を借りて集団での外出も支援している。利用者の外出の希望が聞かれた時は時間を置かずに対応し、思いが実現できるよう努めている。夕日を眺めることが好きな方には毎日、日の入りの時間に合わせて外で眺められるよう支援したり、また、散歩や外気浴など日常的に外出の機会を設けている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 買い物へ出かけた際には好きな物を選んで頂き、預かっているお金でご自身でお金を払って頂ける様に支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族からかかってきた際に、本人と代わって会話をして頂いている。また絵葉書を作って家族に送っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者がゆっくりと過ごせ、暮らしやすくなる様に配慮している。季節感を取り入れた物を飾ったり、行事などの写真等を飾ったりしている。 | 共用空間は明るさや室温などに配慮し、居心地よく過ごせるようにしている。利用者が作成した文化祭の作品や季節に応じた装飾がなされ、時計やカレンダーなどは利用者の目線に合わせて展示している。また、トイレや浴室の案内も利用者にわかりやすいように掲示している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 居場所の工夫などで思い思いに過ごして頂ける様に工夫している。また、テレビや新聞を見ながら利用者同士で会話を楽しまれている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人の使い慣れた家具や小物を持ってきて頂き、居心地よく過ごして頂ける様にしている。 | 居室にはベッドやダンス、ソファなど馴染みの家具が置かれ、写真や家族からのプレゼントもあり、利用者自身がカレンダーの位置を決めて模様替えするなど、個性ある居室づくりがなされている。居室入口には本人の写真が貼られており、ダンスには中身がわかるようラベルをつけるなど、利用者が混乱なく、安心して過ごせる工夫がなされていた。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 本人が安全で出来るだけ自立した生活が送れる様に支援している。各居室やトイレ、お風呂の場所は目印をつけ分かりやすい様にしている。 | | |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |